

自己評価の方法等について

大学機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会

独立行政法人大学評価・学位授与機構

1

自己評価書の構成

- I 対象大学の現況及び特徴
- II 目的
- III 基準ごとの自己評価
 - ◆基準1～11の自己評価
 - ◆選択的評価基準の自己評価

2

I 対象大学の現況及び特徴

- 現況 ①大学名
②所在地
③学部等の構成
④学生数及び教員数

特徴

- ・大学の沿革・理念を踏まえ、目的の背景となる考え方等も含め、大学の特徴が表れるよう記述
- ・原文のまま掲載、公表

3

◇「I 対象大学の現況及び特徴」の様式について

- ・字数制限：2,000字以内（横25文字×縦40行×2段組）
- ・明朝体9ポイントを使用

4

Ⅱ 目的

「目的」: 大学の使命、教育研究活動等を実施する上での基本方針、達成しようとしている基本的な成果等

- ・評価は大学の目的を踏まえて行う
- ・現在、周知・公表している目的、及びその目的から派生する内容も含めて、大学の個性や特色が評価に活かされるように記載
- ・認証評価を受ける時点での大学の掲げる目的を記載(改めて整理するものではない)

5

◇目的と大学評価基準の関係

- 大学評価基準の内容は、大学の個性や特色が十分に発揮できるよう、大学が有する目的を踏まえて評価を行うよう配慮

目的の記載に、大学の個性や特色をあらわす



機構の評価では、目的を踏まえることにより、大学の個性や特色を評価に反映

6

◇目的の記載に当たっての留意事項

○大学として期間を定めた目標等を有する場合
目標等の達成度を自己評価に反映させることも可能

○学部・研究科等ごとの独自の目的がある場合
→大学の目的を記載した上で、記載する

◇選択的評価基準に係る目的(選択的評価基準の評価を希望する場合)

→目的の達成状況等を判断するために、より具体的かつ明確に示すことが必要

7

◇「Ⅱ 目的」の様式について

- 適宜、項立て、箇条書きにするなどわかりやすく記載
- 原文のまま掲載、公表
- 字数制限: 4,000字以内(横50文字×縦40行×2頁)
- 選択的評価基準に係る目的は、別ページとし、基準ごとに2,000字以内(横50文字×縦40行×1頁)で、基準ごとにページを改めて記載
- 明朝体9ポイントを使用

8

Ⅲ 基準ごとの自己評価

9

◆基準1～11の自己評価

(1) 観点ごとの分析

- ① 観点到係る状況
- ② 分析結果とその根拠理由

(2) 優れた点及び改善を要する点の記述

(3) 概要の記述

※自己評価では基準を満たしているかどうかの判断を行う必要はない

10

(1) 観点ごとの分析

- ・全ての「基本的な観点」を用いて分析
- ・「・・・の場合」といった条件が付されているものは、該当しない場合には、分析の必要はない
→「該当なし」と記載
- ・大学の状況や目的に応じて独自の観点の設定が必要な場合には、各基準に対応した独自の観点を適切に設定

【Q&A(資料12) Q83 参照】

11

①「観点到係る状況」の記述

- ・各観点到係る状況について、目的との関連を踏まえて、現在の状況の分析を記述
- ・大学全体としての状況の分析
必要に応じて学部ごと・研究科ごとの分析状況を踏まえる

12

・根拠となる資料・データ等を示しつつ記述

- ・ 近年に大きな変更等がない限り、基本的には現状の資料で対応可能
- ・ 大学の状況や観点の内容によっては、概ね過去5年間の状況が示されれば、より十分な裏付けが得られると想定【Q&A Q91参照】
- ・ 既存の資料で十分に対応可能(自己点検・評価報告書等の必要な箇所の抜き出しや加工したものなど)

※別紙2「自己評価の根拠となる資料・データ等例」
(自己評価実施要項P19～46)を参考に大学で判断

13

◇根拠となる資料・データ等の記載方法

- ・ 本文中に記載した事項との関係が容易に確認できる位置に記載(資料・データの名称及び出典を明記)
- ・ 必要最小限に整理
(自己点検・評価報告書や外部検証(評価)報告書等は必要な箇所の抜き出しや加工したものなど)
- ・ 本文中に記載することで、読みにくくなる場合には別添として記載可能
- ・ 外部に持ち出すことが困難なもの等については、例示として必要最小限の範囲を記載→訪問調査時に確認
- ・ 根拠資料・データを本文中や別添として記載できない場合は機構に相談

【Q&A Q86,104~107参照】

14

②「分析結果とその根拠理由」の記述

- ・ 分析結果を当該観点にふさわしい表現を用いて分かりやすく明確に記述 【Q&A Q92参照】
- ・ 分析結果を導いた理由を「観点到に係る状況」に記載した資料・データ等を摘示しつつ記述

(参考：自己評価イメージ)

15

◇分析に当たっての留意点

- ・ 学部ごと・研究科ごとの状況を示す必要がある場合は、字数制限に留意の上、学部ごと・研究科ごとの状況に関する記述や資料・データ等を示す
(参考：自己評価イメージ P7,P11他) 【Q&A Q14,89,93参照】
- ・ 目的を達成するための具体的な目標や計画を有している場合には、その内容を明らかにした上で、分析を行うことにより、評価に目標の達成状況を反映させることが可能

(参考：自己評価イメージ P12) 【Q&A Q87参照】

16

(2)優れた点及び改善を要する点の記述

- ・基準ごとに観点の分析の中から目的を踏まえて、特に重要と思われる点を、「優れた点」、「改善を要する点」として抽出。

17

(3)概要の記述

- ・基準ごとに観点の分析を整理・総合し、当該基準全体に係る自己評価の概要を記述
- ・評価報告書に原則として原文のまま掲載、公表
- ・当該基準全体に係る自己評価の状況を社会に分かりやすく示す

【Q & A Q100,101参照】

18

◆選択的評価基準の自己評価

①観点ごとの分析→基準1～11の自己評価に準ずる

②目的の達成状況の判断

選択的評価基準に係る目的に照らし、「観点ごとの分析」の結果を
総合した上で、4段階で判断

目的の達成状況が非常に優れている

目的の達成状況が良好である

目的の達成状況がおおむね良好である

目的の達成状況が不十分である

③優れた点及び改善を要する点の記述

→基準1～11の自己評価に準ずる

④概要の記述 →基準1～11の自己評価に準ずる

19

◇「Ⅲ 基準ごとの自己評価」の様式について

(1)「観点ごとの分析」及び「優れた点及び改善を要する点」

基準1～11:基準ごとに5,000字以内

→基準1～11全体で55,000字以内で調整可能

選択的評価基準:基準ごとに7,000字以内

(2)自己評価の概要

基準1～11:基準ごとに1,000字以内

→基準1～11全体で11,000字以内で調整可能

選択的評価基準:基準ごとに1,000字以内

→自己評価の概要は、評価報告書に原文のまま掲載、公表

・ 明朝体10.5ポイントを使用

20

自己評価書の提出方法

- ・自己評価書 10部(両面印刷、表紙裏白)
- ・自己評価書の電子媒体 1部(3.5インチFD、MO、CD-R又はDVD-R)
「大学名」並びに「大学機関別認証評価」と記入したラベルを貼付
- ・提出締切 平成18年6月30日(金)必着
- ・提出先 大学評価・学位授与機構評価事業部
- ・封筒の表面の左側部に「大学機関別認証評価自己評価書 在中」と朱書きで表示してください

21

おわりに

- ・ 自己評価は教育研究活動等の個性化や質的充実に向けた大学の主体的取組の一環
- ・ 根拠資料・データに基づく、客観的な分析
→評価担当者に対するわかりやすさ
- ・ 「対象大学の現況及び特徴」、「目的」、「自己評価の概要」は、原文のまま掲載、公表
- ・ 評価結果とともに、対象大学から提出された自己評価書についても機構のウェブサイトに掲載
→社会に対するわかりやすさ

22